

時津 道志

所属大学：佐賀大学 経済学部 経営科

県内インターンシップ先：一般社団法人ジャパン・
コスメティック・センター、(株)ブルーム

留学先：シャルトル（フランス）

留学期間：2018/3/26～2018/9/21（3年次）

受入機関名：コスメティック・バレエ



活動概要と成果

コスメティックバレエにおける活動は、大きく 3 つに大別される。①フランスの化粧品産業についての学習。②COSMETIC360 のための情報収集、報告など。③日本の化粧品産業についての紹介。以上の 3 つである。成果としては、①については、フランス内の化粧品産業の規制、法制度のみならず、それ以外の国の化粧品産業についてもまなぶことができた。②については、COSMETIC360 で開催される日本文化紹介のエキシビションのため、イベントの立案、情報収集、業者との連絡など、より実務的な作業を行うことが出来た。③については、日本の化粧品産業の法規制のみならず、日本独自の化粧品文化について、コスメティックバレエ側に伝えることが出来た。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

OCOSMETIC360 エキシビションでの日本文化展示

ー実行したこと

COSMETIC360 エキシビションでは、日本をテーマにし、伝統的な日本文化のみならず、マンガやアニメ、さらにはロボットや AI など、新しい日本の文化や技術についても展示することになった。イベントを成功に導くため、まず実行可能であろう企画の立案を行い、それらをコスメティックバレエに提示した。その上でコスメティックバレエが適していると判断したものについて、情報の収集や業者との連絡などより具体的な作業に移った。

ー成果・気づいたこと

COSMETIC360 は私の帰国後に開催されたため、実際に立ち会うことはできなかったが、エキシビションは大変好評だったとコスメティックバレエから報告があったため、日本発信プロジェクトとしてはある程度の成功を収めることが出来たと考えられ

る。気づいたこととしては、日本に関心を抱いているフランス人は私が考えていた以上に多かったこと、またゲイシャやサムライといった、ある種のステレオタイプな日本文化に対するイメージはほとんどなく、マンガやアニメなど、我々日本人とほとんど変わらずに、日本文化を楽しんでいるフランス人が大変多かったことなどが挙げられる。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

コスメティックバレーでの業務やフランスラングでの講座、そして日常生活を通じ、フランス人を含む様々な外国人と触れあう機会を持ったが、日本においては会得しえない強かさを養うことが出来たと思う。日本では「雰囲気」や「配慮」といった非言語的コミュニケーションがある程度成立し、なおかつそれが重視される傾向があるが、フランスではそれが全く通用しないことを感じた。仕事や日常会話のなかでも、言葉をもって意見を述べなければ自分を慮ってくれる人など誰もおらず、それ故にフランス語をあまり習得できていない留学初期は大変苦労した。自分の意見をしっかり主張する努力と、それを相手が理解し、納得する語学力が重要だと感じた。

あなたにとっての留学の価値

私にとって海外渡航そのものがほとんど初めての経験であり、最初は不安と孤独感でいっぱいだったが、半年の留学を通じ、自身の成長を実感する場面が増え、なにより自分に自信を持つことが出来たのがなよりの収穫だったと考える。私にとっての留学の価値とは、渡航先で知見を広め、交流を深めることだけではなく、自分自身を見つめなおし、再構築し、新たに成長することにこそ大きな意味があると考えている。